

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1階)

事業所番号	2795000245		
法人名	(株)フレンド		
事業所名	グループホームフレンド東大阪		
所在地	大阪府東大阪市小若江4-6-7		
自己評価作成日	令和3年9月9日	評価結果市町村受理日	令和3年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コロナ禍において家族様同士が参加することができなかったが、入居者様には小さなイベントを毎月開催し少しでも楽しんでいけるように工夫をした。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(株)フレンド傘下で始業して9年半、当時から就任の管理者と数人の職員とで積み上げてきた介護実績と、新旧合せて職員間の報告・連絡・相談の仕組みが有効に働くチームワークの良さが、家族の信頼と安心の声となっている。社内研修は職員の要望を取り入れ実施され(薬剤・看取りなど)、個人個人に研修計画・評価シートと研修振り返りシートを用い、年毎にスキルアップを図っている。コロナ禍で多くの規制があるが、いろいろな取り組みでのPDCAで、認知症の進行予防や身体機能退化予防にむけて努力している。地域事情を踏まえながら、地域との交流に努め地域の認知症ケアの拠り所、福祉拠点となることを、次期就任予定の管理者と職員の努力に期待する。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての「理念」を軸に施設としてのスローガンをスタッフと会議をして決まったのが「安心 安心 チームで寄り添う いつもの毎日」です。利用者様が安心できるようチームアプローチを行っています。	1階「安心 安心 チームで寄り添う いつもの毎日」、2階「全集中！言葉遣い！！」と各ユニットでスローガンを策定して日々の実践に繋ぐと共に、年毎に全員で評価して見直しを行い、次年度の策定に活かしている。法人理念は玄関に、スローガンは各ユニットの見易いところに張り出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を求めているが、地域としての活動があまりにも少ないことに驚かされる。	コロナ禍以前も、事業所に地域住民を招き入れる形の交流が主であったが、この2年ほどは中止状態である。3町を統合した自治会に参加しているが、地域としての行事もないが回覧板や市広報は入手している。今後、大学の実習生受け入れ、中学校の体験学習受け入れなどを検討したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会隣人の家族様の入院生活などの相談にのったりして出来る限り声かけを心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体的拘束、虐待防止委員会発足により運営推進会議において施設の取り組みや状況を理解して頂き、アドバイスを頂いている。	コロナ禍により、昨年度より運営推進会議は書面会議としており、事業所からの諸事報告を議事録として関係者に送付している。地域参加者が自治会長が1人である。	書面会議は可とするが、報告書送付で終止せず意見徴集を図ったものを議事録とすること、地域密着型の意義を深め、サービス向上を図る意味においても、地域からの参加者を募り運営推進会議の活性化に向けて努力することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は実情とれていない協力関係を築いていく努力をする	業務上の連絡・連携は滞りなく関係性を維持している。コロナ感染発生に関しては、保健所との緊密な連携で事態を無事に収束し、貴重な経験を得たとしている。地域包括センターとの協力体制も良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修を開催しそれぞれのスキルアップに努めている。身体拘束をしないケアを目指し、指導している。	身体拘束適正化委員会を運営推進会議と一体化した形で開催し、法人の教育研修責任者の現場事情に沿った研修の実施と、15項目にわたる不適切ケアチェックの適用で日々の言動に注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織としても年3回は虐待防止関連の研修を必須としている。管理者は2か月に1度不適切ケアのチェックを職員と共に振り返る機会をお互いに共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルスの影響で研修する機会が減っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定の際には、充分理解を得られる説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様や利用者様の御意見や要望にお応えできる様努力している。	コロナ禍により、昨年度より家族面会は中止状態に在り、面談による意見・要望の聴取は不可だが、電話対応時に聴取している。近年、具体的な意見・要望はないとしている。家族アンケートに見るオンラインでの対面希望があるが、組織として対応不可としている。個人写真と同文体のコメントを掲載した月1回のフレンド便りを届けている。法人から直接に家族へのアンケートがあり事業所への通知があるが、具体的な意見・要望は出ていない。	法人の方針としてコロナ禍の収束状況次第では面会中止が続くとしている中で、フレンド便りに、職員による個々人の日々の暮らしぶりが伺えるコメントを載せて意見・要望を聴き出すツールにし、一層家族の安心・信頼を得ることについて検討することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者によるヒアリングを行い、職員からの意見を収集し、定例会議の場で検討を行い、運営の改善に役立っている。また、運営主体に直接意見があげられるように、WEB目安箱を設置している。	管理者・ケアマネジャー・リーダーの3者が参加のユニット会議(月1回、全員参加、報酬有)での意見・提案については、現場解決で対応している。難しい件については、本部関係者出席の管理者会議(月1回)に上程して改善・解決を図っている。管理者との対話・面談は日常化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、左記の状況を把握する為に報告書の作成をして、適正に就業環境が保たれているか分析を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所単位での研修計画に加えて、個人の研修計画を立案しており、実態に即した育成を行っている。社員教育支援制度を設けており、資格取得の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所について、エリア内のみならず全国的に交流する機会を設けており、運営に関わる様々なことを共有し、サービスの向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に十分な聞き取りをし本人や家族様の思いをサービスに活かせ、安心ある生活を送って頂ける様努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との関係づくりがサービスを導入するうえで不可欠であると考え、蜜に連絡を取り要望や困っておられる事に耳を傾ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様の思いの優先順位を確認し、相談しながらサービスを提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊厳を持って支援し、時には学び、共に楽しみや喜びを分かち合える関係になれる様 努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と支援する者の考えが一致出来る様に日頃から話し合いを設け継続していくことが本人を支えていく大切な要素であると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で直接面会はできていない状態であるが窓越しでの面会や電話で話す機会を設けている。	個人的にも馴染みへの関心は希薄であり、外部からの関りが主であるが、コロナ禍で途絶えている。身近な家族との面会も窓越しや電話の取次ぎとなっており、外出やボランティア導入も中止状態で、馴染みへの関係維持は今後の努力次第となる。地域のDVDや出身地の写真など関係資料で、記憶の呼び戻しを、と努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のメリット、デメリットを職員が理解し生活を共にするもの同士としての関わり合いを支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了と共に関係が終わる事が多いのが現実であるが、終わりの形の違いにより関係の維持が続く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	其々の思いを感じながら、支援をしても、意向に沿った支援が出来ない場合もある。少しでも寄り添う事が出来る様努めている。	認知症の特性や性格、生活歴を識り理解して、日常の接遇時での発語・表情・態度から訴えをキャッチする、支援する、に努めている。支援のずれは原因を検討しより良い方向へと全員で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活、環境、家族、思いなどを共有し理解する事でサービスに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、したいこと其々の持っている力を引出し発揮出来る場を提供できる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや会議を通して、其々の思いや専門職の意見を聴き、家族関係者と話し合い計画作成に反映させている。	半年に1回のモニタリング、年1回のアセスメント、介護記録や月1回のカンファレンス記録を基に、医師・看護師の所見を参考に年1回サービス担当者会議で作成と見直しを図っている。状況変化に応じ随時に見直しを行っている。家族意見は電話対応としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に小さな気づきも記録し職員すべてが情報を共有し実践する際には大変役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の高齢化に対し様々な手続きの支援や相談をさせて頂いている。医療費の高額などの不安からも解消され喜ばれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自立支援によるデイケアの参加により内外の様子や違いを発見する事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により訪問診療を主に変化や検査時は受診している。主治医の指示のもと迅速に対応してくれるので施設側も家族も安心している。	入居時の説明で全員が協力医を主治医として月2回の訪問診療を受け、歯科は希望者前提で全員が訪問診療を受けいる。皮膚科・眼科・整形も協力医療機関で受診している。診療状況表は家族に郵送している。訪問看護師は週1回のバイタルチェックなどで健康管理に当たっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との関係が良好である為緊急時の対応に不安なく支援出来る。適切な指示を頂く事によりしっかりした支援が継続出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換を密に、早期の退院への取り組みに着手し施設復帰を協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に対応について契約は交わしているが、重度化した場合や終末期にも再度家族や関係者の意思の確認をしている。十分な説明のもと支援の方向性をひとつにしてチームとして最後まで支援する。	契約時に「重度化及び看取りの介護に関する指針」の下に同意・確認を得ている。利用者の状態の変化時に医師の説明により家族の意思を再確認し、関係者との担当者会議で看取りの介護計画を作成しチームで支援をしている。開所以来多数の看取りを経験しており、経験に基づく研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が救命講習を受け初期対応の実践に向けて訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。避難経路や避難先、連絡網など日頃から取り組んでいる。地域との協力体制は徐々に理解を求めていく。	既定の避難訓練は9月に火災訓練を実施し、年度内に1回を計画している。災害避難マニュアルと連絡網を整備し、ハザードマップにより避難場所の確認をしている。避難時の利用者の薬等の情報を名札に整理して保管し、非常物品として水・アルファード・ランタン・懐中電灯を用意している。近隣に在住する数名の職員が駆け付けられる応援体制がある。	住宅街に在る木造2階建て、利用者状況を踏まえ、火災のみでなく他の災害に備えた訓練の実施と、避難後の生活体験での備蓄品の見直しについて検討することを望む。加えて、地域交流を進化させ、災害時のお互い様の関係づくりに期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合った声かけや支援を心掛けている。プライバシーを損ねない言葉選びで対応している。	利用者の人格を尊重したその人に合った声掛けをするように気を付け、排泄時の大きな声や入室時の声掛けなどプライバシーに配慮している。不適切な対応にはその都度注意している。年間研修計画で人権・接遇の研修を実施し振り返りをして理解し知識を得ている。個人情報の書類は施錠できる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い傾聴する事で何かを発見出来る場面を作る工夫をしている。本人発信の言葉がひとつでも多く出る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間など本人の思いと異なる事もありますが、理解して頂ける様説明し納得されない時は希望に出来るだけ沿う様対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	数人の入居者様が今なおカラーリングを希望されています。髪をといたり、髭を剃ったり様々なその人らしいを継続出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく楽しんで頂ける様、食器や小物、おたのしみの食事など少し工夫をして提供している。準備や片づけなど出来る事を一緒に活動している。	業者より調理食品を購入し、ご飯と汁物は事業所で作り、職員も一緒に食事をしている。利用者はテーブル拭きや配膳や洗い物に参加し、お好み焼き・たこ焼き・郷土料理を作る日もある。お誕生日に利用者の好きなものを作ったり、週に2~3回パンケーキ・おはぎ・クッキーなど、利用者もおやつ作りに参加して楽しんでいる。食事時は車イスより移乗し椅子に座っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往に合わせ、食べる量や水分量に違いがあり、医師の指示のもと1人1人の健康状態に沿った支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回の歯科診療による口腔ケアマネジメント計画に沿ったケアを職員が随時実施しているによる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを活用しトイレでの排泄を可能する事でおむつを減らす努力をしている。	利用者の排泄パターンを把握し様子を見て声掛けをしてトイレ誘導している。オムツに頼らないよう声掛けをして現在オムツの利用者はいない。夜間は定時パット交換や利用者の様子を見て声掛けをしてその人に適したトイレ誘導をしている。夜間のみポータブルトイレを利用している利用者は3名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理のため水分摂取や服薬調整が必須であり状態にあわせ、運動への働きかけなど予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に沿った支援を実践している。 介助をようする方がおおいため見守りや介助が欠かせない状況である。	週2回午前中に利用者の様子次第で入浴している。拒否する人には日を替える、シャワーや足浴など柔軟に対応している。浴室は広く3方から介助でき、2人介助やシャワー浴の人もあり、見守りのなかでゆっくり入浴している。保湿剤を塗る人、着替えを楽しんでいる人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝される方、早く休まれる方、宵っ張りの方など其々のタイミングで休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を管理して其々の服薬に関して理解をしている。同時に副作用など起こりうる変化についても医師からの助言を職員が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活を過ごして頂く為に、役割に応じた家事や楽しみごとを継続して頂ける様声かけや誘導をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や外泊などの機会があれば全面的に支援をする。希望通りに外出が困難の場合もあり、理解をして頂き、またの機会を提供している。	コロナ禍で外出の機会が得られていない。階段の上り下りをしている利用者がいる。	外出に代わる館内での運動やレクリエーションの工夫や、外気に触れて五感の刺激が得られ、気分転換やストレス発散が出来るように、玄関先まで出る、敷地内のベンチに腰掛けるなど、外出支援ができないことの代替策への発想と実行を望む。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の代行は可能であるが、お金の所持は難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや手紙の代筆等それらのやり取りが出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く静かな施設であり広い空間の中、ゆったりとくつろげるソファを配置し、季節感を随所に感じて頂ける工夫をしている。	広く日当たりの良いリビングは明るくて廊下・浴室もゆったりとしている。窓は開放して空気清浄機を置き空調・換気に気を付け毎日清掃して4時間おきの消毒をしている。壁に利用者と職員で作った花火・折り紙の作品を飾り季節を感じる。テーブルやテレビ・ソファを置き寛げる空間を設ける工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3個のソファの配置により其々の入居者様が好きな場所で思い思いに利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様其々使い慣れた思い出の家具をお持ち頂いている。	入り口に自分好みの表札を掲示している。居室はクローゼット・ベッドが用意され、天井からは血圧・心拍・体温が測られるバイタルセンサーが取り付けられている。利用者は筆筒・椅子・机・時計など自分好みの物を持ち込み、家族や孫の写真を飾りその人らしい部屋作りをしている。窓は日中開放している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	其々の居室には表札があり、目印をつけたり「出来る事」「わかる事」への工夫をしている。		